

まる へに

株主レポート

No.111

2011 WINTER

丸紅TOPIC

「食の安全・安心」に貢献する 有機人工土壌の植物工場

丸紅は、有機人工土壌「ヴエルデナイト」を用いた土耕式植物工場システムを販売しています。屋内空間を有効利用し、天候や害虫の影響を受けずに、有機肥料で無農薬野菜を安定的に供給することが可能です。食の安全・安心や食糧自給率問題改善に貢献する取り組みとして注目されています。

Marubeni

CONTENTS

- | | |
|-------------------|---------------------------------|
| 02 社長メッセージ | 10 東日本大震災 復興への取り組み |
| 2011年度第2四半期決算について | 13 特集 丸紅プロジェクト紹介 [ケミカル・ビジネス] |
| 06 連結決算情報 | 16 世界の食卓 |
| 07 セグメント情報 | 18 IRインフォメーション |
| 08 丸紅グループの動向 | 20 丸紅ウェブサイト紹介・株主メモ 丸紅クリッピング |

〔注意事項〕本資料の将来の見通しに係わる記述は、現時点での入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。



2011年度第2四半期決算について

株主の皆様には、変わらぬご高配を賜り深謝申し上げます。当社は10月31日に、2011年度第2四半期決算を発表致しました。この機会に、2011年度第2四半期決算の概要につき、ご報告申し上げます。

1 2011年度第2四半期決算の概要

◆連結純利益1,030億円(+50%の大幅増益)

それでは当社の2011年度第2四半期決算につき、まず収益面からご説明します。

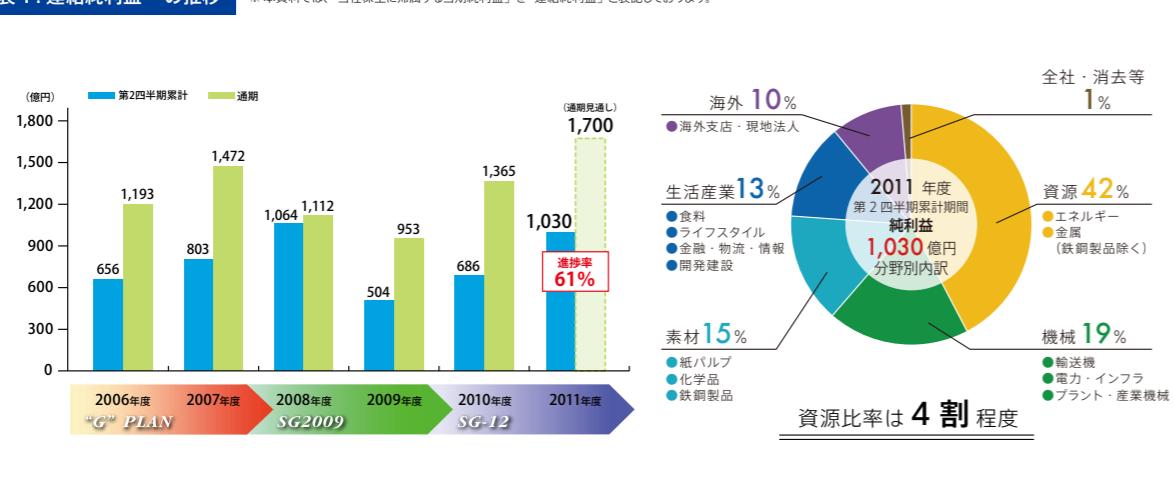
第2四半期累計期間の連結純利益は1,030億円となりました。前年同期比では+344億円、率にして+50%の大幅増益です。また、期初に設定した業績予想1,700億円に対する進捗率は61%に達しており、極めて順調に推移しています。今第2四半期累計期間、前年同期とともに、有価証券売却益や株式減損等の一過性損益が含まれていますが、そ

ういった特殊要因を除いた実力値は、前年同期の約670億円に対し、今期はほぼ1,000億円と分析しています。従い、実力値でも約+330億円の増益となり、連結純利益の増益幅+344億円とほぼ見合っていることから、連結純利益の増益分は実力ベースでの増益と評価しています。

また、当社の稼ぐ力を示す指標である実態営業利益、基礎収益においても、今第2四半期はそれぞれ971億円、1,444億円と、いずれも前年同期比4割程度の大幅な増益となっており、当社の実態の収益力が飛躍的に伸びていることがお分かり頂けるかと思います。

表1: 連結純利益⁽¹⁾の推移

※本資料では、「当社株主に帰属する当期純利益」を「連結純利益」と表記しております。



President & CEO Teruo Asada
代表取締役社長

朝田 照男



今第2四半期、原油や銅といった商品価格は前年同期比、総じて高水準で推移しました。さらに、昨年度に実施した米国メキシコ湾油・ガス田買収による権益量拡大も加わり、資源分野であるエネルギー、金属は大きく増益となりました。一方、非資源分野においても、当社が伝統的に強みを持ち、業容拡大している海外IPP、穀物トレーディング、農薬・肥料事業を中心に増益となりました。その結果、連結純利益1,030億円に占める資源分野の比率は4割程度となっており、当社の特徴である資源分野と非資源分野の良好なバランスを維持しながら、力強い利益成長を実現できたと考えています。

次に、財務面についてご報告します。

2011年9月末連結純資産は9,008億円となり

ました。円高・株安によるマイナスの影響はあったものの、順調な利益の積み上げにより、前年度末比+690億円の増加となりました。

一方、連結ネット有利子負債は、重点分野への新規投融資の実行等により、1兆7,578億円と前年度末比+1,422億円増加しました。結果、ネットD/Eレシオは1.95倍(+0.01ポイント)と、前年度末とほぼ同水準となりました。

円高・株安といった環境下においても、収益力の拡大に加え、為替のヘッジといった諸施策の実施により、財務体質は従来比強化されていると評価しています。

2 新規投融資の進捗状況

次に、現在推進中の中期経営計画『SG-12』にお

ける重要な施策である「経営資源の重点配分」、すなわち、新規投融資の進捗状況についてご説明します。

『SG-12』では、将来の持続的成長を支える収益基盤のさらなる拡充を図るべく、2010年度から2012年度までの3年間で、重点分野に計7,500億円の新規投融資を実施する計画としており、2010年度の実績は約1,600億円でした。今年度は第2四半期までに、約1,200億円を実施しており、累計実績は約2,800億円となりました。今年度、第2四半期までに実施した主な案件をご紹介しますと、「資源」分野においては、米国 Marathon Oil 社から取得了米国 Niobrara シェールオイル権益、「インフラ」分野では、インドネシアの石炭火力発電事業 Paiton2 への投資、「環境・生活・その他」分野では、米国自動車販売金融会社 Westlake 社への出資参画等です。

また、これら実施済の案件に加えて、決裁済であるものの未だキャッシュアウトされていない案件が約3,600億円あり、合計で約6,400億円の投融資案件につき社内的には決裁済です。

第3四半期以降については、デンマーク A.P.Moller - Maersk A/S 社が保有する LNG 船 8隻の所有権取得や、英国 Gunfleet Sands 洋上風力発電事業への参画といった案件をはじめとして、新規投融資の実行が本格化し、当社の収益基盤はさらに拡充される予定です。

3 今期業績見通しと配当方針について

最後に、2011年度の業績見通しと配当方針についてご説明します。

表2(左) : 連結純資産とネットD/Eレシオ 表3(右) : 経営資源の重点配分



◆史上最高益の更新へ

冒頭でご説明しました通り、今第2四半期累計期間の連結純利益は1,030億円、期初に設定した業績予想1,700億円に対し、進捗は61%と極めて順調です。

一方で、当社を取り巻く環境を概観しますと、引き続き中国を中心とする新興国が世界経済の回復を牽引する構図に変化はないものの、ギリシャをはじめとする欧州ソブリン債務問題を中心として、世界経済の先行きについては不透明感が高まっています。かかる経営環境に鑑み、通期連結純利益見通しは1,700億円と、期初の業績予想を変更しておりません。

しかしながら、第2四半期累計期間の連結純利益は1,030億円と、進捗率が61%に達していること、さらに、第3四半期以降の見通しについては、円高・株安・資源価格の調整といった要素を相応に織込んで策定していることもあり、過去の史上最高益である1,472億円を大幅に上回る通期の連結純利益1,700億円の達成には自信を深めています。

◆連結配当性向を「20%以上」に引き上げ

かかる収益力の着実な向上を踏まえ、株主還元の一層の強化を図るべく、連結配当性向を「15%程度」から、「20%以上」に引き上げることを決定しました。これに伴い2011年度の年間配当金は連結純利益見通し1,700億円に対し、当初予想の一株あたり15円を修正し、一株あたり20円とする予定です(内、中間配当金は10円にて決議済)。

◆「強い丸紅」の実現に向けて

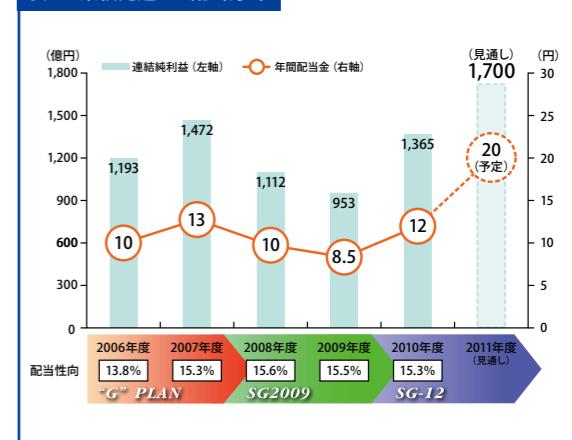
3カ年の中期経営計画『SG-12』も1年半を終え、折り返しを迎えたが、これまでの進捗は、以下の通り順調と評価しています。

- 当社の特徴である資源分野 / 非資源分野の良好なバランスを維持しながら、力強い収益拡大を続けています。
- かかる収益力の拡大に加え、為替のヘッジをはじめとする諸施策の実施により、円高・株安等、外部環境の変化に対し、財務体質の耐久性が従来比強化されていること
- 将来の布石となる新規投融資について、第3四半期以降実行が本格化する予定であり、収益基盤のさらなる拡充が期待されること

一方で、先程ご説明の通り、世界経済の動向については、先行き不透明感が高まっており、引き続き十分な警戒が必要と認識しています。当社としても気を緩めることなく、今期の史上最高益更新、さらには来年度の『SG-12』完遂、「強い丸紅」の実現に向けて、引き続き邁進して参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を頂戴いたしたく、宜しくお願い申し上げます。

表4: 業績見通しと配当方針



2012年3月期(2011年度)第2四半期の連結業績



1. 2012年3月期第2四半期の連結業績 (2011年4月1日～2011年9月30日)

(1) 連結経営成績〔累計〕

| | 売上高 [百万円] | 営業利益 [百万円] | 税引前四半期純利益 [百万円] | 当社株主に帰属する 四半期純利益 [百万円] | 1株当たり当社株主に帰属 する四半期純利益 [円] |
|---------------|-------------------|----------------|--------------------|------------------------------|---------------------------------|
| 2012年3月期第2四半期 | 5,150,455 (15.7%) | 96,121 (44.7%) | 152,457 (59.6%) | 103,030 (50.1%) | 59.34 |
| 2011年3月期第2四半期 | 4,451,934 (20.3%) | 66,438 (5.7%) | 95,553 (14.0%) | 68,648 (36.1%) | 39.53 |

(注) 1. 売上高および営業利益については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。

2. 売上高は、当社および連結子会社が契約当事者または代理人として行った取引額の合計額となっております。

3. 営業利益は、連結損益計算書における「売上総利益」、「販売費及び一般管理費」および「貸倒引当金繰入額」の合計として算出しております。

4. 四半期包括利益 2012年3月期第2四半期 71,780百万円 (-) 2011年3月期第2四半期 △ 25,136百万円 (-)

(2) 連結財政状態

| | 総資産 [百万円] | 資本合計(純資産) [百万円] | 株主資本 [百万円] | 株主資本比率 [%] |
|---------------|--------------|--------------------|---------------|---------------|
| 2012年3月期第2四半期 | 4,915,060 | 900,752 | 834,193 | 17.0 |
| 2011年3月期 | 4,679,089 | 831,730 | 773,592 | 16.5 |

(注) 上記の株主資本は、連結貸借対照表上の当社株主資本であり、株主資本比率は当社株主資本により算出しております。

2. 配当の状況

| | 1株当たり年間配当金[円] | | | |
|--------------|---------------|--------|--------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 |
| 2011年3月期 | - | 5.50 | - | 6.50 |
| 2012年3月期 | - | 10.00 | - | |
| 2012年3月期(予想) | | | - | 10.00 |
| | | | | 20.00 |

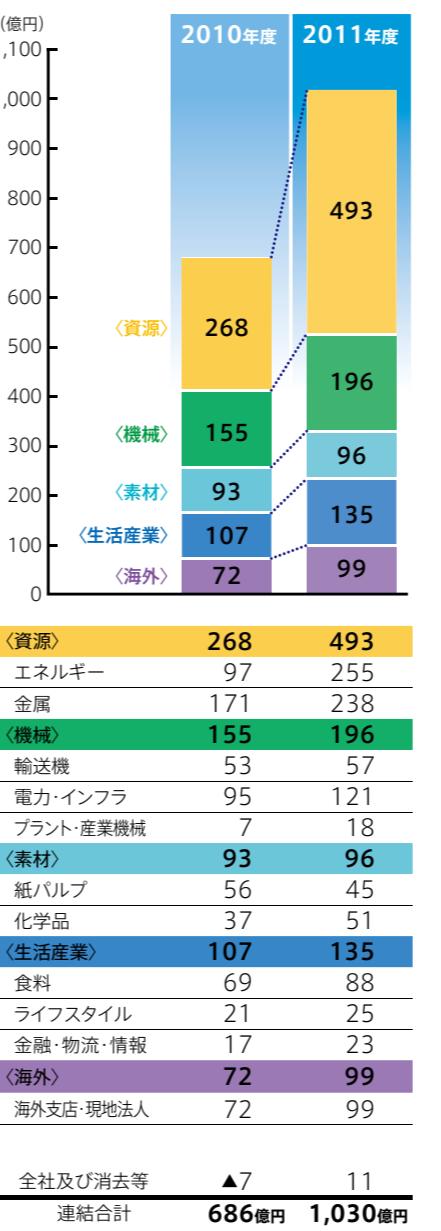
(注) 2012年3月期第2四半期における配当予想の修正の有無 有

3. 2012年3月期の連結業績予想 (2011年4月1日～2012年3月31日)

| | 売上高 [百万円] | 営業利益 [百万円] | 税引前当期純利益 [百万円] | 当社株主に帰属する 当期純利益 [百万円] | 1株当たり当社株主に帰属 する当期純利益 [円] |
|----|--------------------|-----------------|-------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 通期 | 10,000,000 (10.9%) | 170,000 (16.6%) | 265,000 (27.9%) | 170,000 (24.5%) | 97.90 |

(注) 2012年3月期第2四半期における業績予想の修正の有無 有

(第2四半期累計期間)



主な増減要因

■エネルギー

石油・ガス開発分野を中心とした売上総利益の増益に加え、受取配当金の増加等があったことから、四半期純利益は増益。

■金属

石炭・非鉄軽金属の価格上昇および鉄鋼製品事業の増益により、売上総利益、四半期純利益ともに増益。

■輸送機

船舶の取扱減少を主因として売上総利益は減益となったものの、持分法による投資損益の増益により四半期純利益は増益。

■電力・インフラ

海外発電事業の子会社化により売上総利益は増益。持分法による投資損益が減益となったものの、海外発電事業の継続保有持分に係る評価益の計上により、四半期純利益は増益。

■プラント・産業機械

産業機械および繊維機械関連事業での売上総利益の増益に加え、持分法による投資損益の増益により、四半期純利益は増益。

■紙パルプ

ムシパルプ事業の前年同期における一過性利益の反動等により、売上総利益、四半期純利益ともに減益。

■化学品

石油化学製品分野を中心に売上総利益、四半期純利益ともに増益。

■食料

穀物取扱を中心とした売上総利益の増益等により、四半期純利益は増益。

■ライフスタイル

売上総利益は前年同期並みであったが、経費並びに持分法による投資損益の改善により四半期純利益は増益。

■金融・物流・情報

ITソリューション分野での子会社売却の影響で売上総利益は減益となったものの、経費の改善並びに有価証券の売却益等により、四半期純利益は増益。

■海外支店・現地法人

米国会社の増益により売上総利益、四半期純利益ともに増益。

・当連結会計年度より、「開発建設」は「全社及び消去等」に編入しております。これに伴い、前年同期のオペレーティング・セグメント情報を見替えて表示しております。
 P2の「連結純利益分野別内訳」における「資源」比率は、上記「金属」から「鉄鋼製品」ビジネスの利益を除き、算出してあります。
 P2の「連結純利益分野別内訳」において「鉄鋼製品」は「素材」として「開発建設」はひき続き「生活産業」としてカウントしております。
 上記の説明文における「四半期純利益」は「当社株主に帰属する四半期純利益」であります。

丸紅グループの2011年度上半期ニュースリリースを一部ご紹介します。

2011.4.1 - 2011.9.30

- 4.6 ナイオプララ・シェールオイル開発プロジェクトへの参画
- 4.22 中国最大級の農牧企業である山東六和集団傘下の飼料畜産事業へ出資参画する件
- 5.11 南米最大の石油化学会社であるBRASKEM社とブタジエンの長期引取契約について（関連記事 P13）
- 5.16 丸紅、双日、JFE商事、日鐵商事、豪州コドリラ石炭鉱区の権益を取得～製鉄用PCI炭の優良炭鉱を所有し、安定的供給に貢献～
- 6.10 豪州・ゴールドコースト市トラム PPP案件受注について
- 6.16 「災害ボランティアプロジェクト」の実施（関連記事 P10）
- 6.20 丸紅タイで大型複合火力案件2件同時受注
- 7.1 丸紅のWestlake社への経営参画について
- 7.5 中国・旺旺集団との戦略的提携について
- 7.14 オマーン国・スール発電事業の事業権獲得について
- 8.16 **シノグレイン油脂、山東六和集団と戦略提携意向書締結について～中国全土での飼料合弁事業展開へ～** [\[詳細 P8\]](#)
- 8.17 インドネシアPaiton2石炭火力発電事業への参画に伴う事業会社株式取得について
- 9.2 **英国ガンフリー・サンズ172MWの洋上風力発電事業に出資参画する件** [\[詳細 P9\]](#)
- 9.20 丸紅が持続可能性指標DJSI Worldの対象銘柄に継続選定されました（関連記事 P19）

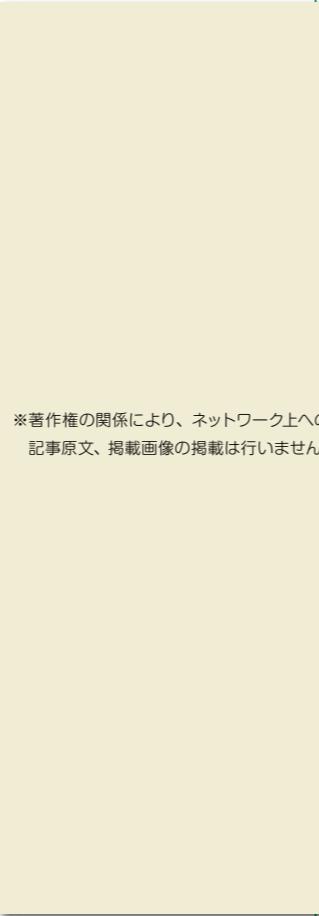
2011.8.16 リリース

シノグレイン油脂、山東六和集団と戦略提携意向書締結～中国全土での飼料合弁事業展開へ～

丸紅は、中国儲備糧管理總公司(シノグレイン)グループ傘下の中儲糧油脂有限公司(シノグレイン油脂)および中国最大規模の農牧企業である山東六和集団有限公司(六和集団)と、中国全土において飼料合弁事業を展開していくことで合意し、戦略提携意向書に調印しました。

●当社の狙いと展望

今回、丸紅仲介のもとで実現した3社戦略提携では、成長が続く中国の飼料需要を見据え、中国全土にて合弁で最新鋭の飼料工場を建設し、中国飼料市場でのシェア拡大、飼料・畜産インテグレーション事業の基盤拡充を目指します。丸紅の大きな強みである穀物販売量は、2012年度には25百万トンを超える計画です。世界有数の穀物調達力を活かして、3社合弁事業への原料供給に加え、シノグレイン、六和集団への穀物販売も目指します。



2011年8月16日
日本経渷新聞朝刊 1面掲載記事より作成

2011.9.2 リリース

英国ガンフリー・サンズ172MWの洋上風力発電事業に出資参画

丸紅は、デンマークの大手総合エネルギー会社であるDONG Energy A/S(以下「DONG社」)より、ガンフリー・サンズ洋上風力発電事業の権益49.9%を取得しました。本件は英国南東部Essex州沖合7kmに位置し、発電容量は172MW、2010年春より稼動しています。

●当社の狙い

本件は、日本企業として初の、商業運転中の洋上風力発電事業への本格出資参画です。洋上風力の分野で世界シェア第1位(28%)の実績を持つDONG社をパートナーとして、丸紅は、本プロジェクトを通じて洋上風力発電の開発および操業のノウハウを吸収し、今後、欧州における同分野での事業参画、および将来洋上風力発電事業が本格的に進められる可能性のある市場への投資を検討していきます。なお、丸紅は米国中部大西洋岸地域において、洋上風力発電用の大規模海底送電線事業をグーグル社等と共同で開発しており、電力事業における新規分野への取り組みを積極的に推進しています。



ガンフリー・サンズ洋上風力発電設備群

●展望

丸紅の保有発電容量(当社持分)は、2011年9月現在8,796MWであり、このうち水力発電所を含む再生可能エネルギー資産は450MWです。現在遂行中の中期経営計画SG-12期間中に、保有発電容量(当社持分)を11,000MWに拡大させ、そのうちの再生可能エネルギー資産の保有比率10%を目標に、今後も電力事業に積極的に取り組みます。

※著作権の関係により、ネットワーク上への記事原文、掲載画像の掲載は行いません。



2011年9月2日
日本経渷新聞朝刊 1面掲載記事より作成

復興のために

丸紅グループの被災地支援

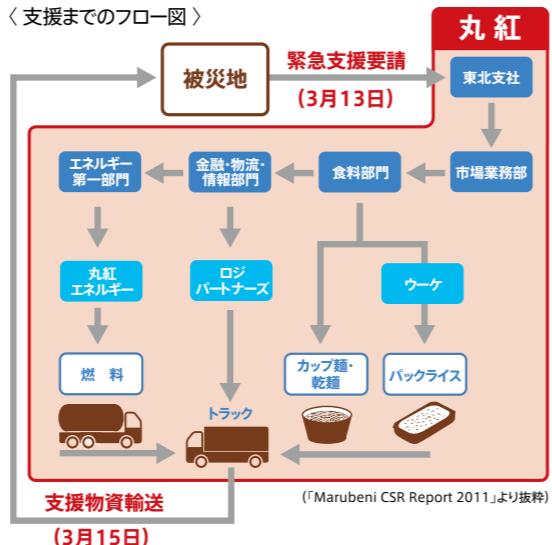


丸紅は、総合商社としてのビジネスで培った知見とグループの総合力を活かし、被災された方々が未来に向けて歩みを進められるよう、全力で復興に貢献して参ります。改めまして、被災地の一日も早い復旧・復興を心から祈念申し上げます。

総合商社の強みを活かし、
丸紅グループ内の連携で食料物資支援を実施

丸紅東北支社（仙台市）は、地震発生 2 日後の 3 月 13 日、被災地のお取引先から 2,000 名分の食料提供の緊急要請を受けました。東北支社から報告を受けた丸紅本社市場業務部では、直ちに食料部門（当時）に対して食料調達を依頼。食料部門トップからできる限りの食料調達の指示が出され、丸紅グループ会社の（株）ウーケで製造・販売しているパックライス約 5 万食のほか、カップ麺約 1 万 2,000 食、乾麺約 1 万食を調達しました。

しかし、震災直後は物流拠点の被災や、道路状況の混乱等により被災地への配送が困難な状態で、輸送手段の確保が大きな問題でした。このため、食料部門より輸送の依頼を受けたグループ会社で物流サービスを行うロジパートナーズ（株）は、トラックの確保に奔走すると同時に、さらに入手が困難であった燃料につき、同じくグループ会社で、ガソリンや軽油・灯油等を販売している丸紅エネルギー（株）に燃料調達を依頼。同社が燃料を効率的



に提供することで、支援物資は 3 月 15 日に物流センターを出発し、現地まで輸送されました。

さまざまな商品を扱う総合商社ならではの連携を活かすことで、迅速に被災地へ支援物資を届けることができ、お取引先とそこに避難してきた周辺住民の方々からは、「膨大な数のパックライスや麺類などをいただき、丸紅の誠意に心から感謝しています」との言葉をいただきました。



当社社長が仙台のお取引先、グループ会社を訪問

朝田社長がお取引先およびグループ会社訪問のため、仙台を訪れました。訪問先では被災された皆様にお見舞いを申し上げると共に、復興に向けて最大限の努力をもって取り組んでいく決意を表明しました。



丸紅建材リース（株）にて被災した施設を視察

丸紅畜産（株）の視察風景



丸紅東京本社にて被災地復興支援 物産展開催

丸紅東京本社では、被災地産品を購入することで、復興支援の一助に繋がる「応援消費」として被災地支援即売会を開催しています。これまでに開催した岩手県、宮城県、福島県 3 県の物産展では、それぞれ各地の農産物、酒、菓子などの名産品が販売されました。被災地に行けない社員にもできる支援として社員にも好評で、朝田社長はじめ、延べ 2,300 名を超多くの役員・社員が来場しました。各县の関係者から大変感謝をいただきました。



丸紅基金「東日本大震災復興助成」の実施

社会福祉法人「丸紅基金」は、全国の社会福祉活動に従事する団体等に対し毎年 1 億円の「社会福祉助成」を行ってまいりましたが、これとは別に東日本大震災で被災した社会福祉事業団体等を対象に、2011 年度・2012 年度の 2 年間で総額 5 億円を助成する「東日本大震災復興助成」を実施しています。この原資としては、丸紅基金の運用財産に加え、丸紅およびグループ会社の役員、社員、OB・OG で構成する「100 円クラブ」からの寄付金および寄付金と同額の丸紅からのマッチングギフトが充てられます。



丸紅グループでは、被災地の救援と復興にお役立ていただけるよう、義捐金と支援物資を被災地にお届けしました。義捐金については、被災地 5 県（岩手・宮城・福島・青森・茨城）に対する 3 億 6,000 万円をはじめ、本社、国内外の支社・支

店、海外現地法人、グループ会社をあわせて 4 億 8,000 万円を超える金額を拠出しています。また、グループ組織とは別に、当社役員・社員に寄付を呼びかけ、集まった義捐金約 3,400 万円を日本赤十字社を通じて寄付しております。



丸紅は、沖電気工業(株)、(株)損保ジャパン、(株)みずほフィナンシャルグループと合同で、「災害ボランティアプロジェクト」を実施し、被災地に社員ボランティアを派遣しています。

6月から7月にかけては丸紅グループから58名が参加しました。被災地では宮城県のボランティアセンターと連携し、泥のかき出しや家財道具の運びだし、生活用品の洗い流しなど、現地の要請に応じて活動を行いました。

10月から12月にかけても、延べ約90名の丸紅グループ社員によるボランティアプロジェクトを実施しています。



丸紅(株) 金融・物流・情報総括部
市村 雅博さん
この活動に参加して良かったと思ったのは、ボランティアセンターから割り当てられたいろいろな作業を、仲間と協力して、それも目標を上回って完了出来たときに、みんなそれぞれ自分なりの達成感を得られたことです。私は60歳代なので、参加前には、暑く厳しい環境の中で力仕事など出来るのかなと心配していましたが、女性の参加者も多かったですし、体力に自信のない人でも必ず出来る仕事があると感じました。



丸紅紙パルプ販売(株)
高橋 有紀子さん
もし個人でボランティアに参加しているたら、暑さもあり、作業中に気持ちが萎えることもあったかもしれません
が、団体での参加で、チームで作業をしたこと、そのチームワークのよさが良かったと思います。こういう機会を継続して長く取り組んでいけたら良いと感じました。

新入社員による被災地支援活動

丸紅の2011年度総合職新入社員103名を対象とした新人研修の一環として、9月から10月にかけ、計5回に分けて宮城県七ヶ浜町でボランティア活動を行いました。各回約20名が参加し、七ヶ浜海岸近辺の整備や清掃などの活動とともに、東北支社長のレクチャーやグループ討議も行い、新社会人として、命の尊さを改めて再認識し、また、被災地支援の在り方について考える貴重な機会となりました。



特

丸紅プロジェクト紹介

集

トレードと事業投資のシナジーで 「総合商社No.1」を目指す

第6回
[ケミカル・ビジネス]



化学品部門長 岩下直也

世界トップクラスのトレード力

丸紅の化学品ビジネスは1950年代、繊維用化学品を供給元から調達し、需要家へ販売する「トレード」に始まりました。現在では石油化学品、塩ビアルカリ、合成樹脂、無機・農業化学品、機能化学品、電子材料の全分野をポートフォリオとして保持し、川上から川下までの幅広いビジネスを世界的に展開しています。

中でも石油化学品分野では、ナフサや天然ガスを原料として製造されるオレフィン(エチレン、プロピレン、ブタジエン等)のトレードを1970年代から続けており、今では全世界で約30%のシェアを誇るトップクラスのトレーダーとして君臨しています。

オレフィンは常温では気体であるため、輸送の際はマイナス104℃まで冷却・液化し、特殊専用船で輸送することになりますが、丸紅は常時15~17隻の特殊専用船をチャーターし、それらを世界各地で網目のように運行させ、効率的な調達と供給を実現しています。供給元と需要家のニーズに柔軟に対応できるこの体制と、長年に亘るノウハウの蓄積が、丸紅の強固なオレフィントレード力に結びついてきました。

しかしその一方で、丸紅はトップシェアの地位に安泰することなく、加速を続けています。

トレードと事業投資 一収益拡大の両輪

1990年代、当時から丸紅はオレフィントレードで世界トップクラスのシェアを誇っていましたが、その中でブタジエンは他のオレフィン素材に比べ、取扱いが多くありませんでした。そこで、取扱量を増やすにはまず売り先の確保が必要であると考え、1996年、ブタジエンを原料とする

《丸紅 ケミカルビジネスの沿革 - 主要案件》

| | |
|------|---|
| 1968 | ダンピア・ソルト社(豪)設立 |
| 1972 | 大韓油化工業 [®] (韓)へプロピレンを納入 ※当時の丸紅の事業会社 ⇒丸紅のオレフィントレードのファーストステップ |
| 1982 | TPIC社(泰)へエチレンを納入 ⇒ エチレントレードの始まり |
| 1987 | ヘレナケミカル社(米)を買収 |
| 1996 | 申華化学工業有限公司(中)に出資 アグロビスタ社(英)を買収 |
| 2010 | インディアンオイル社(印)、TSRC社(台湾)と、インドで合弁会社を設立。2013年にインド初の合成ゴム工場を稼働予定 |
| 2011 | プラスケム社(伯)とブタジエン引き取り契約を締結 天津渤海化工集団公司(中)と戦略的パートナーシップ契約締結 |

合成ゴムを製造・販売する申華化学工業有限公司（中国）に出資しました。

供給先である合成ゴム製造事業に参画することにより、丸紅のブタジエン取引を大きく拡大させたのです。

2010年にはさらに事業投資を加速させ、インドにおいて、国営石油会社であるインディアンオイル社、台湾最大の合成ゴムメーカーTSRC社と共同で、合成ゴムの製造・販売を行う合弁会社設立に合意。2013年にインド初の合成ゴム工場が稼働する予定です。

インドの自動車販売数は2008年で約200万台、その後も年率10%以上のペースで伸びており、今後数年で米国、中国、日本に次ぐ世界第4位の市場となると言われています。本事業が稼働すれば、インド国内のタイヤ需要をさらに取り込むことができると期待されています。

また、その他の新興国での需要増にも対応するため、2011年5月には南米最大の石油化学会社であるプラスケム社（ブラジル）と総額450億円におよぶブタジエン引き取り契約を締結し、ブタジエンの供給元確保を実現しました。

このように丸紅は、トレードから事業投資へ、事業投資からさらなるトレード創出へと、ビジネスを拡大・深化させています。

無機化学品分野においては、1968年、コマルコ社（現リオ・ティントグループ）と日商岩井（現双日）をパートナーとして、ダンピア・ソルト社（豪）を設立しました。高度経済成長期の急激な工業塩需要増を見越し、アジアに近い地における塩の生産と安定的な日本への供給を目指していました。

現在、ダンピア・ソルト社は、西オーストラリアにある3つの塩田で年産1,000万トンにのぼる塩を生産する世界最大の天日製塩製造企業となっています。丸紅は強固なトレード力を活かし、アジアにおいて50%弱のシェアを占めるまでにこの事業を成長させてきました。

さらに近年、急速な経済発展により、中国での工業

丸紅ケミカルビジネスの 主要拠点

丸紅 No.1 分野

丸紅化学品部門は6つの営業ユニットと、30社余りの連結子会社・関連会社を中心に、丸紅のグローバルネットワークを駆使して世界各地でビジネスを展開しています。

●●●出資・提携案件

- 上記以外の主な化学品部門連結子会社・関連会社
- オレフィントレード・コアオフィス

丸紅 No.1 分野

農業資材ディストリビューション事業で商社トップ

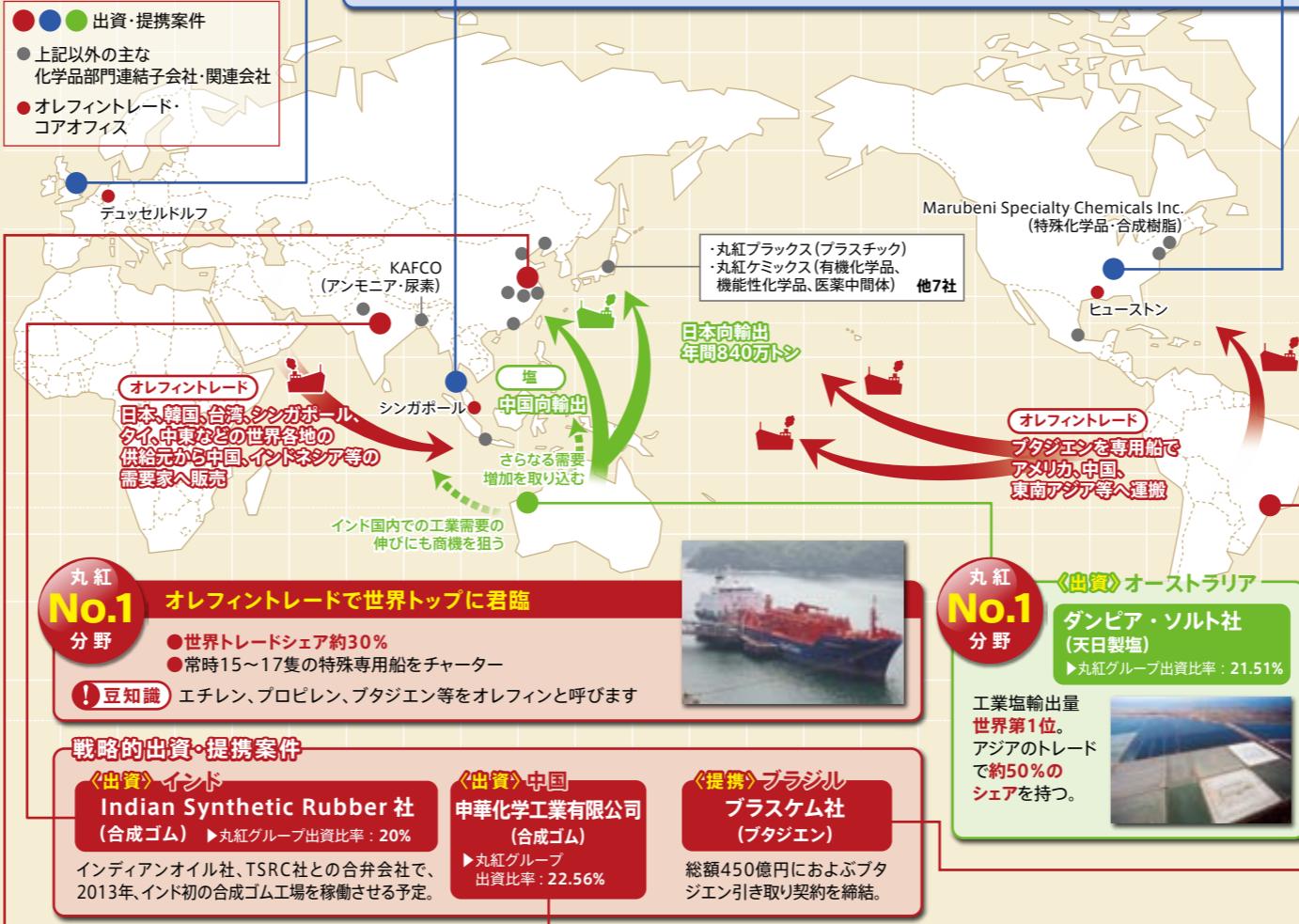
〈出資〉英・オランダ
アグロビスタ社（農業）
▶丸紅グループ出資比率：100%

〈出資〉マレーシア
ACM社（農業）
▶丸紅グループ出資比率：29.55%

〈出資〉アメリカ
ヘレナケミカル社（農業・肥料・種子）
▶丸紅グループ出資比率：100%

全米48州に約400カ所の販売拠点を有する、
全米第2位のディストリビューター。

！豆知識 農業資材とは、農薬、肥料、種子、他関連物資のことです



用塩需要が大幅に伸びています。ダンピア・ソルト社では、急速な勢いで高まりつつある中国向け需要を今後どう取り込んでいくのかが喫緊の課題です。この分野においても事業投資を新たなトレードに繋げるべく、商機を狙っているところです。

農業化学品分野においては、川下分野でヘレナケミカル社（米）、アグロビスタ社（英・オランダ）、ACM社（マレーシア）に投資し、肥料・農薬の強力な販売網を築いてきました。

この分野にも、さらなる商機はいたるところにあります。新興国の食文化が豊かになることで穀物需要が伸び、それに伴って肥料や農薬の需要も飛躍的な伸びを見せています。今後一層販売網の拡充を図るとともに、川上分野においては、肥料原料であるリン（P）やカリ（K）についても権益を獲得すべく取り組みを進めているところです。

「総合商社 No.1」を目指す

これらの例からもおわかり頂けるように、当社化学品部門は、長期に亘るノウハウと実績に裏打ちされた「強いトレード力」と、ネットワークを活かした「戦略的な事業投資」を両輪として、さらなる収益拡大を目指しています。

上記で紹介した以外にも、中国武漢におけるインクトナー事業、日本での高純度炭酸リチウム事業等、多くの分野で将来への布石を打っています。

今後も、トレードによって蓄積した知見やネットワークを活用し、最新の情報によって確度の高いビジネスをタイミングに企画し、戦略的事業投資の実現を目指すとともに、事業投資から新たなトレードの機会を創出し、業務を拡大していきます。

丸紅は、トレードと事業投資の相乗効果を最大限に狙い、「総合商社化学品部門 No.1」を目指します。

世界の食卓

～インドネシア料理～

丸紅グループ社員が世界各地の料理とそのお国柄などを紹介するコーナー。



チーフシェフのスタミさん(写真左)と

丸紅環境インフラプロジェクト部
環境インフラ第一チーム チーム長
福田正樹・章子・陽斗 ご家族
2003年4月から2008年3月まで
丸紅インドネシア会社(ジャカルタ)駐在。
主に織維商品の輸出業務に携わる。

Recipe!!

材料(2人前)

鶏肉 75g
小松菜 1/3 束
キャベツ 3 枚
赤ピーマン 1/2 個
卵 2 個
あたたかいご飯 600g
サラダ油 大さじ4
サンバル(注1) 大さじ3
塩・こしょう 適宜

(注1)サンバルを使わない場合は、しょうゆ大さじ1と1/2、トマトケチャップ大さじ2、チリソース大さじ1を、あらかじめ混ぜ合わせたものを使います(お好みで量は調節してください)。

(注2)小豆を塩漬けにして発酵させ、ペースト状にした調味料です。独特の強い臭いと旨みがあり、加熱すると香ばしい香りに変わります。主に、通販や輸入食材専門店で手に入れます。

【サンバルの簡単な作り方】

A お好みの量の唐辛子をサラダ油100ccと一緒にミキサーにかけたもの
B サラダ油 小さじ1
おろしにんにく 小さじ1
おろししょうが 小さじ1/2
シュリンプペースト(注2) 小さじ2
ホールトマト 60cc

A(大さじ2)とBをすりつぶして、よく混ぜる

作り方



小松菜、キャベツ、赤ピーマンを食べやすい大きさに切る。鶏肉はゆでて裂いておく。



熱したフライパンに大さじ2の油を入れ、目玉焼きを作る。黄身を半熟に仕上げ、できたら皿に取る。



塩・こしょうで味を調え、小松菜を入れて炒める。皿に盛り、上に②の目玉焼きをのせる。黄身を崩して、からめながら食べるのがおススメ。

“ナシゴレン”

甘辛いサンバル・ソースで味つけしたインドネシア定番の“焼き飯”を、ソト・アヤム(チキンスープ)とともに。

【サンバルの簡単な作り方】

A お好みの量の唐辛子をサラダ油100ccと一緒にミキサーにかけたもの
B サラダ油 小さじ1
おろしにんにく 小さじ1
おろししょうが 小さじ1/2
シュリンプペースト(注2) 小さじ2
ホールトマト 60cc

A(大さじ2)とBをすりつぶして、よく混ぜる

「Tidak apa apa!」の奥にある、秘めたパワー。

アセアン地域最大の人口大国にして、世界最多のイスラム教徒を抱えるインドネシア。現在、急速に経済成長が進む同国の首都・ジャカルタに、福田さんが赴任したのは、1997年のアジア通貨危機後、経済が徐々に回復してきた2003年のことでした。

「インドネシアの人たちはとても気さくでおおらか。『みんな家族』といったような考え方を持っています。例えば、結婚式を開くと千人もの人が集まることも珍しくないんですよ」と福田さん。しかし、常夏の島の国民性ゆえか、のんびり屋で大雑把な人も多く、仕事の遅れを指摘しても「Tidak apa apa!」(問題ないよ!)と笑顔で答える。工程管理を厳しく行いながらも、彼らのプライドを傷つけないように諭すことは、福田さんの大切な仕事でした。

「イスラム教の行事である『ラマダン』(断食月)や、日本でいう盆と正月が一緒にやってくるような大祭『レバラン』の前は、現地の人々は気もそぞろとなり、仕事にも身が入りません。年間のスケジュールを組み立てる際に、こういったイスラム暦を十分考慮することが重要でした」

一方「老後はインドネシアで暮らしたい!」とすっかり気に入ったのは章子さんです。明るくて人なつっこ

しいインドネシアの人々は、二人を温かく受け入れてくれました。「駐在中に生まれた陽斗は、現地の人たちにとてもかわいがられて育ちました。子育てをするには最適な環境でしたね」

ナシゴレンは、近所のゴルフ場でプレーする際の福田さん夫婦の定番メニューだったそうです。また、ソト・アヤムは、章子さんが大好きであっさりとしたチキンスープ。帰国前夜の夕食にもリクエストしたほどだと。ナシゴレンの甘辛さやソト・アヤムの優しい味わいに、慣れない環境と風土の中で不便を笑顔で乗り越えた日々が思い出されます。

「インドネシアは、その気候のためかのんびりとした雰囲気がありますが、国としてまだまだ大きな力を秘めていると思います。経済回復が進む活気あふれる時期にこの地で駐在を経験したことは、現在の自分にとって大きな糧となっています」



写真館で撮影した、ジャワの民族衣装でのファミリーフォト。

インドネシアと丸紅



世界4位、2.4億人の人口を擁するインドネシアは、旺盛な内需に支えられ堅調な成長を続けており、アセアン経済の牽引役として急速にその存在感を高めつつあります。丸紅は1972年にジャカルタ支店を開設以来、ライフスタイル、化学品、金属、食料取引、発電プラントや交通システムなどインフラ分野、また植林・パルプ製造、発電事業まで多岐に亘るビジネスを展開しています。



取材協力店

インドネシアンレストラン
cabe 目黒通り店

東京都目黒区目黒3-12-7
バルビゾンビル 4F
TEL. 03-3713-0952

【交通】

JR目黒駅西口徒歩11分
東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線目黒駅から徒歩8分

【営業】

〈ランチ〉11:30～15:00 〈ディナー〉18:30～23:00
〈土〉11:30～23:00 ※日・連休最終日は、11:30～22:00

会社概要 2011年9月30日現在

創業 1858年5月
設立 1949年12月1日
資本金（単体） 262,685,964,870円
従業員の状況 従業員数： 4,096名
平均年齢： 41.8歳
平均勤続年数： 16.8年

・上記人員には、国内出向者 663名、海外店勤務者・海外出向者・海外研修生 775名が含まれております。また、上記4,096名のほかに、海外現地法人の現地社員 1,404名、海外支店・出張所の現地社員が 376名あります。

当社ネットワーク 2011年10月1日現在

国 内
本社 東京都千代田区大手町一丁目4番2号
支社・支店・出張所 北海道支社、東北支社、名古屋支社、大阪支社、九州支社等9カ所

海 外
支店・出張所 モスクワ支店、イスタンブール支店、ヨハネスブルグ支店、シンガポール支店、クアラルンプール支店等55カ所
現地法人 丸紅米国会社、丸紅歐州会社、丸紅アセアン会社、丸紅中国会社等33の現地法人 およびこれらの支店・出張所等32カ所

海外ネットワーク (68カ国 120カ所／2011年10月1日現在)



役員 2011年9月30日現在

取締役および監査役
取締役会長 勝俣宣夫
取締役社長* 朝田照男
取締役副社長執行役員* 関山 譲
取締役専務執行役員* 太田道彦
取締役常務執行役員* 川合紳二、園部成政、山添 茂、秋吉 満、野村 豊、岡田大介、中村諭吉
取締役 小倉利之、石川重明
監査役 安江英行、崎島隆文、工藤博司、北畠隆生、黒田則正

執行役員

専務執行役員 國分文也
常務執行役員 鹿間千尋、榎 正博、鳥居敬三、津田慎悟、来山章司、田中一紹
執行役員 生田章一、世一秀直、松村之彦、紺戸隆介、生野 裕、岩佐 薫、岩下直也、葛目 薫、内山元雄、南 晃、矢部勝久、家永 豊、甘艸保之、柿木真澄、寺川 彰、水本圭昭、若林 哲、小林武雄、石附武積、田島 真、熊木 純

*印の各氏は、代表取締役であり、かつ執行役員を兼務しております。
・取締役小倉利之および取締役石川重明は、社外取締役であります。
・監査役工藤博司、監査役北畠隆生および監査役黒田則正は、社外監査役であります。
・当社は業務運営の一層の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は38名で構成されております。

IRニュースメールを配信しております

決算情報はもちろん、最新のビジネスの動きを伝えるニュースリリースなど、当社の情報をタイムリーにお届けします。パソコンのメールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料でご登録いただけます。ぜひご利用ください。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

<http://www.marubeni.co.jp/ir/mailnews.html>

株式の状況 2011年9月30日現在

発行済株式の総数
1,737,940,900株
株主数
133,496名

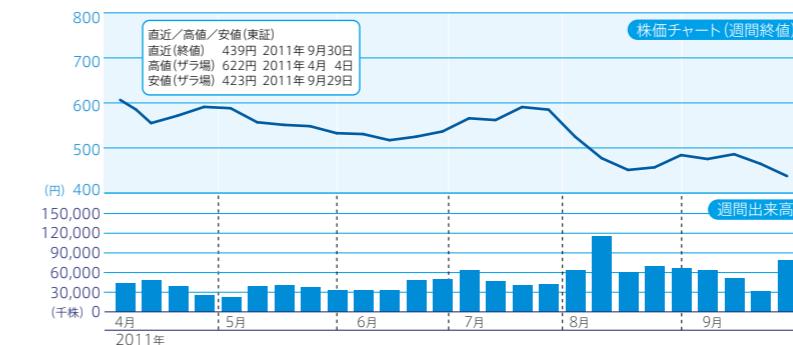
大株主

株主名
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055
株式会社損害保険ジャパン
明治安田生命保険相互会社
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS
東京海上日動火災保険株式会社
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）
ステートストリートバンク アンド トラストカンパニー
株式会社みずほコーポレート銀行

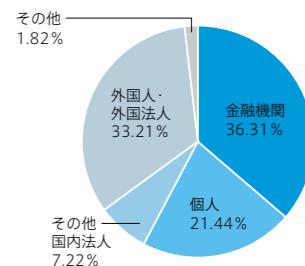
| 当社への出資状況 | |
|----------|----------|
| 持株数（千株） | 議決権比率（%） |
| 103,841 | 5.99 |
| 75,438 | 4.35 |
| 72,207 | 4.16 |
| 56,110 | 3.24 |
| 41,818 | 2.41 |
| 34,952 | 2.01 |
| 34,902 | 2.01 |
| 31,771 | 1.83 |
| 30,788 | 1.77 |
| 30,000 | 1.73 |

*持株数は千株未満を切り捨て、議決権比率は小数点3位以下を切り捨てております。

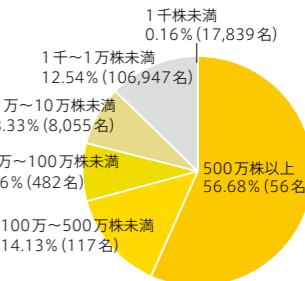
株価／出来高の推移 2011年4月1日～2011年9月30日



所有者別分布状況



所有株数別分布状況



円グラフの数値は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

sam 2011 sector leader

SAM Sector Leader
産業別セクターにおける最高評点企業

Dow Jones Sustainability Indexes Member 2011/12

Dow Jones Sustainability
World Index (DJSI World)

sam 2011 gold class

SAM Gold Class
総合評点による格付け最高ランク

FTSE4Good Global Index

丸紅は、世界的なCSR調査・格付け機関のSAM社から「持続可能性に優れた企業」として認定されており、3年連続で「SAM Sector Leader」に、2年連続で「SAM Gold Class」に選出されました。また、世界的なSRIインデックスであるDJSI World、FTSE4Good Global Indexの組み入れ銘柄企業に選定されています。

※SAM社:本社スイス所在の世界的なCSR調査・格付け会社

※SRIインデックス:企業の財務面だけではなく、社会的責任(CSR)を投資決定の重要な判断要素とする社会的責任投資の指標

丸紅ウェブサイトのトップページには こんなコンテンツも

PHOTOGRAPH

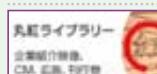
丸紅グループ社員が撮影したプロ顔負けの写真をお楽しみください。2ヵ月ごとにラインナップが変わります

CONTENTS

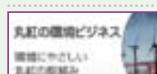
いろいろなコンテンツが



現在遂行中の中期
経営計画の資料を
掲載しています。



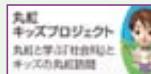
企業紹介映像や
CMなどをご覧いただけです。



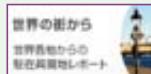
丸紅グループが
取り組む環境ビジ
ネスのご紹介。



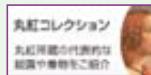
丸紅グループの
社会貢献活動を
まとめました。



丸紅のキッズプロジェクト
丸紅と学び育む会員制
キッズの育成講座



世界各地の「今」を
丸紅の視点でご
紹介。



「丸紅コレクション」
から代表的な絵画
や着物をご紹介。

盛りだくさん!

アクセスして是非ご覧ください
<http://www.marubeni.co.jp>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

単元株式数 1,000株

定期株主総会 毎年6月

上場取引所 東京・大阪・名古屋

期末配当金支払株主確定日 每年3月31日

公 告 方 法 電子公告

中間配当金支払株主確定日 每年9月30日

(なお、当社の電子公告は、当社インターネットホームページの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)

<http://www.marubeni.co.jp/ir/houteikoukoku.html>

株主名簿管理人及び

特別口座管理機関

みずほ信託銀行株式会社

〒103-8670

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

同事務取扱場所

みずほ信託銀行株式会社

本店 証券代行部

〒103-8670

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

丸紅株式会社 証券コード: 8002 インターネットホームページアドレス <http://www.marubeni.co.jp>

■ 株式事務に関するご案内

◆未払配当金のお支払い、支払明細の発行 みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

◆住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、配当金受取方法のご指定、相続に伴うお手続き等

【証券会社に口座をお持ちの株主様】口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

【証券会社に口座をお持ちでない株主様（特別口座に記録されている株主様）】みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

※確定申告の際には、株式数比例配分方式以外の配当金受取方式を選択された株主様については、同封しております配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

●お問い合わせ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324

株主レポート まるべに No.111（年2回発行） 2011年12月1日発行 発行人／松村之彦
発行／丸紅株式会社 財務部 〒100-8088 東京都千代田区大手町1-4-2 TEL 03-3282-2418



環境保全のため、環境に配慮した
植物油インクで印刷しています。